

2007年規則

オーストラリア・ニュージーランド合同解釈・ガイダンス抜粋

(Australian Bridge Federation/New Zealand Bridge Laws Interpretation, Regulation and Guidance)

オーストラリアブリッジ連合とニュージーランドブリッジは2007年規則の解釈、規定とガイダンスを公表しましたが、ABFの許可を得て27条など参考になる部分を抜粋して翻訳しました。

第12条C項1(c)

ディレクターは、違反行為直前の時点におけるハンドの公平を回復するために加重スコアを与えることができる。加重計算は、その時点以降の違反行為に影響されない予想される結果と関連させる。関連する加重の査定で疑問な点はすべて非反則側に有利に解決する。

例：間違った説明の結果、NSは4♥xをディフェンスした。正しく説明されていれば間違いなくスペードでゲームをビッドし、スラムをビッドしてディクレーラーのプレイ次第で11または12トリック取れる可能性があった。

ディレクターは次のような加重スコアを与えることで公平を回復できると判断した：

	40% of +1430 (6♠=)
プラス	30% of +680 (4♠+2)
プラス	20% of +650 (4♠+1)
プラス	10% of -100 (6♠-1)

チーム戦のスコア加重

もう一つのテーブルの結果はNS+680だったとする

得点差	IMPs	加重	調整
+1430 - 680 = +750	+13	40%	5.2
+680 - 680 = 0	0	30%	0.0
+650 - 680 = 30	-1	20%	-0.2
-100 - 680 = -780	-13	10%	-1.3
	合計		3.7

IMPのトータルは一番近い整数に丸め（四捨五入）、ボードは非反則側に+4IMPとスコアする。

ペア戦のスコア加重

13テーブルのスコアシートは次の通りだったとする：

Table	Contract	Tricks	Score
1	6♠	12	+1430
2	6♠x	12	+1660
3	4♠	12	+680
4	4♠	11	+650
5	加重する問題のスコア		
6	6♠	12	+1430
7	4♠	11	+650

8	4♠	12	+680
9	7♠x	12	-200
10	4♠	12	+680
11	6♠	11	-100
12	6♠	11	-100
13	6♠	12	+1430

※次の計算で、マッチポイントは0.5を避けるため2倍してあります

5番テーブルの結果が+1430ならNSのマッチポイントは1.9

結果が+680ならNSのマッチポイントは1.3

結果が+650ならNSのマッチポイントは0.8

結果が-100ならNSのマッチポイントは0.4

加重スコアはそれぞれのマッチポイントにパーセンテージを乗じて計算する：

$$(0.4 \times 1.9) + (0.3 \times 1.3) + (0.2 \times 0.8) + (0.1 \times 0.4) = 13.5 \text{ MP}$$

IMP戦とは異なり、マッチポイントでは小数点以下も認めるので13.5MPをNSに与える。スコアの数値が1.3のトップは24MPなのでEWは残りの10.5MPを受け取る。

第27条B項1(a)

不十分なビッドと言い直したビッドのどちらもアーティフィシャルではないとディレクターが判断すれば、制限なしに不十分なビッドを一番低い合法的レベルで同じデノミネーションに言い換えることが認められる。オークションは普通に進行し、ビッドはナチュラルを意図していたという情報はプレイヤー全員に合法であり、従って第16条D項は適用しない。

第27条B項1(b)

選んだコールが不十分なビッドと同じかより正確な意味を持っている（つまり、言い換えが同じかより正確な情報を伝える）とディレクターが判断すれば、制限なしに別の合法的コール（アーティフィシャルは無関係）に言い換えることも認められる。

ディレクターがこの裁量権を正しく行使するためには、まず違反行為が起きた時点での違反したプレイヤーの最初の意図を判断し、その後ペアのシステムを調査する必要がある。このためときにはプレイヤーをテーブルから連れ出して質問したり、ペアのシステムカードを調査したりすることが必要になる。ディレクターは、このような調査を行った後、オプションを説明する。

以下に注意：

- 本当に意図しない行動は第25条で修正する。
- ときには、第27条B項1(b)で制限なしの言い直しを認めるべきか、それとも第27条B項2で反則者のパートナーにオークションの終了までパスを要求するべきかはっきりしないことがある。このような場合、ディレクターは第27条B項1(b)を適用する立場に立って間違える方を勧める（つまり、普通のブリッジの結果を得るを試みる）。

第27条D項

ディレクターが制限なしに不十分なビッドの言い直しを認めるときは必ず、反則者のパートナーが取り消したビッドの助けを得ていなければハンドの結果は違っていたと非反則側が考えれば、プレ

イ終了時にディレクターを呼び戻すようにアドバイスする。非反則側が損害を受けたとディレクターが判断すれば、第27条D項を適用する。

このような調整は、最初の反則行為（すなわち、不十分なビッド）が起きなかった場合に最もありそうな結果に基づいたものとする。いかなる場合も、ディレクターが第27条B項2を適用すれば（たとえ、その後この方がより適切な行動であったと判断されたとしてもつまり第82条C項は適用できない）非反則側に生じたかもしれないと認められる利益を少しでも加重した調整スコアを与えてはならない。

例

(a) West East
1♠ 3♠
4NT 4♦

Eはブラックウッドにレベルを間違えて答えたとしてディレクターが確信すれば、Eは一切制限なし5♦への言い直しが認められる。

(b) West North East
4NT 5♥ 5♦

同様にEWがブラックウッドへのオーバーコールに対してDOPIを使っていれば、Eはパス（1Aを示す）することができ、その後オークションは制限なしに進行する。逆にEWがPODI（パス=0、ダブル=1）を使用していれば、Eは不十分なビッドをダブルに言い換えて同じ結果になる。

(c) West North East
1♦ 1♠ 1♥

1♥は少なくとも4枚のハートとレスポンスするHCPを示すつもりだったのであれば、第27条B項1(a)でこれ以上の制限なしに2♥への言い直しが認められる。

あるいは、Eのネガティブダブルがシステム上少なくとも4枚のハートを保証する場合も、Eは第27条B項1(b)で1♥をダブルに言い換えることができる。

しかし、パスはハートスーツを伝えず、従って第27条B項2を適用する。すなわちパートナーはコールの順番にいつもパスしなければならず第23条と26条を適用することがある。

(d) West North East
1NT 2♠ 2♦

Eの意図がハートへのトランスファーの場合（2♠ビッドを見過ごした）、3♥に言い換えるビッドはパートナーをオークションから閉め出すことにならない。

(e) West North East
1NT 2♦ 2♣

2♣は単純なステイマンのつもりだった。レヘーベンソール・タイプのキュービッドで3♦への言い換え（4枚メジャーを尋ねる）は最初の不十分なビッドと同じ意味を持ち、従ってWがオークションから閉め出されることはない。

あるいは、プレイヤはナチュラルな3♣をビッドするつもりだったことをディレクターが確信すれば

第27条B項1(b)で制限なしに変更を認める。

(f) West East
2NT 2♥

同様に2♥がトランスファーのつもりだったのであれば、3♥ビッド（依然トランスファー）は制約なしにオークションを続けることが認められる。

(g) West North East
1♠ 2♥ 1NT

ここで1NTの2NTへの言い直しは、これが疑問の余地なくEの最初の意図だったことをディレクターが確信すれば第27条B項(b)で制限なしに認められる。

別の状況（Eは2♥を見過ごした）では、2NTへの言い換えは1NTと2NTが両方ともナチュラルであれば第27条B項1(a)で制約なしに認められる。EのHCPの範囲が直接2NTレスポンスした場合と異なるかもしれないという情報は双方の側に正当なものだが、反則行為がなければ得られなかったかもしれない有利な結果（Eのプレイに限り8トリック取れる2NTに止まるような）を反則側が得た場合は第27条D項を適用する。

(h) West North East
1♣ 1♥ 1♦

EWはストロングクラブを使っていて、Eは1♥ビッドを見過ごした。1♦が0-7HCPを示すつもりだった場合は、パスへの言い換え（0-4HCP）はWをオークションから閉め出すことはない。狭いHCPの範囲を明示するコールは、広いHCPの範囲のコールより実際はさらに正確である（すなわち、より多くの情報を含んでいる）ことに注意する。

まとめ：

不十分なビッドの大部分はRHOのコールに注意を払わなかったり、オークションの現在のレベルを一般に混乱したりすることから起きる。従って第27条の適用に当たりディレクターは次の手順を踏むようにする：

- 1) プレイヤをテーブルから連れ出し、最初の意図とするつもりだったコールの明確な意味を判断する。
- 2) パートナーシップのシステムを確認し、必要なら反則者のシステムカードやシステムノートを参照する。
- 3) 得られる可能な言い換えコールとその意味を決定する。
- 4) テーブルに戻りプレイヤにすべてのオプションを説明する（第27条A項のとおりLHOには不十分なビッドを受け入れるオプションがあることも含め）。
- 5) （十分に説明を受けた）プレイヤに言い直おすコールを選ばせ、その後ステップ（1-3）に詳しく述べた調査に基づいて第27条B項1と第27条B項2のどちらかを適用する。
- 6) 第27条B項1を適用した場合は、不十分なビッドの助けがなければボードの結果は違ったと考えればプレイ終了後またディレクターを呼ぶよう非反則側に伝える。

注：ビディングボックスを使用しているときは、プレイヤは単に箱からビディングカードをつまみ間違ったのかもしれない可能性にディレクターは注意する。ディレクターがこのように考えた場合は、第27条ではなく第25条A項を適用する。